

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

1. 建物概要

建物名称	(仮称)江南区文化会館建設工	
建設地	江南区	
用途地域	都市計画区域内 市	
建物用途	事務所, 集会所,	
竣工年	2012年5月 予定	
敷地面積	20,976.65 m ²	
建築面積	4,355.18 m ²	
延床面積	5,002.91 m ²	
階数	地上2F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2010年7月14日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{67}{33} = 2.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

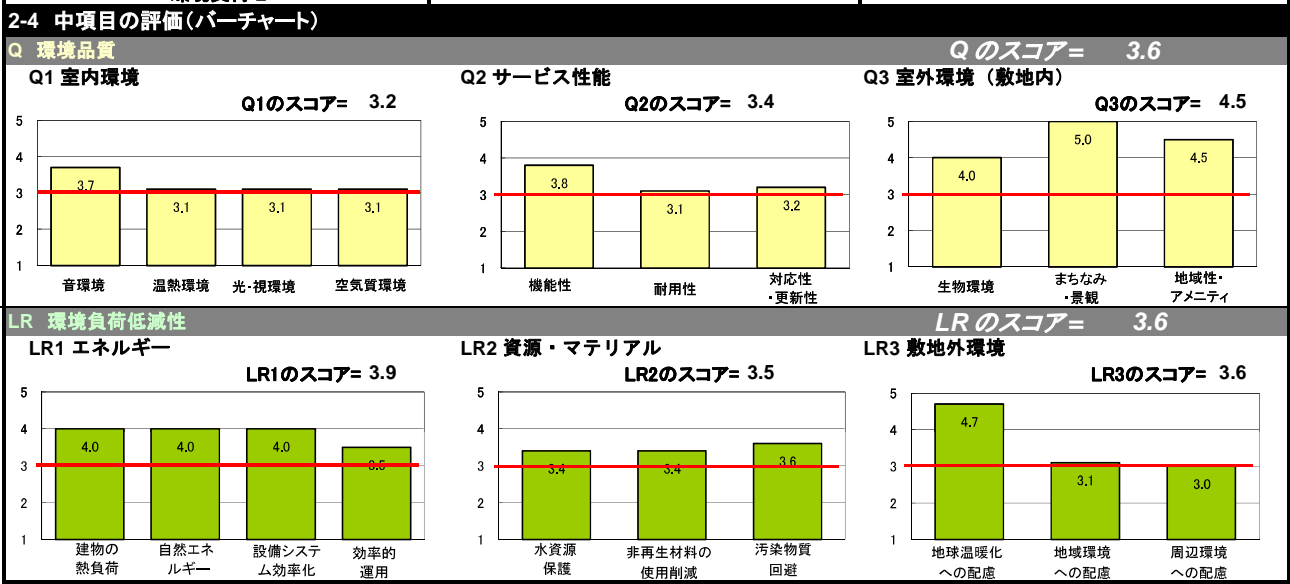
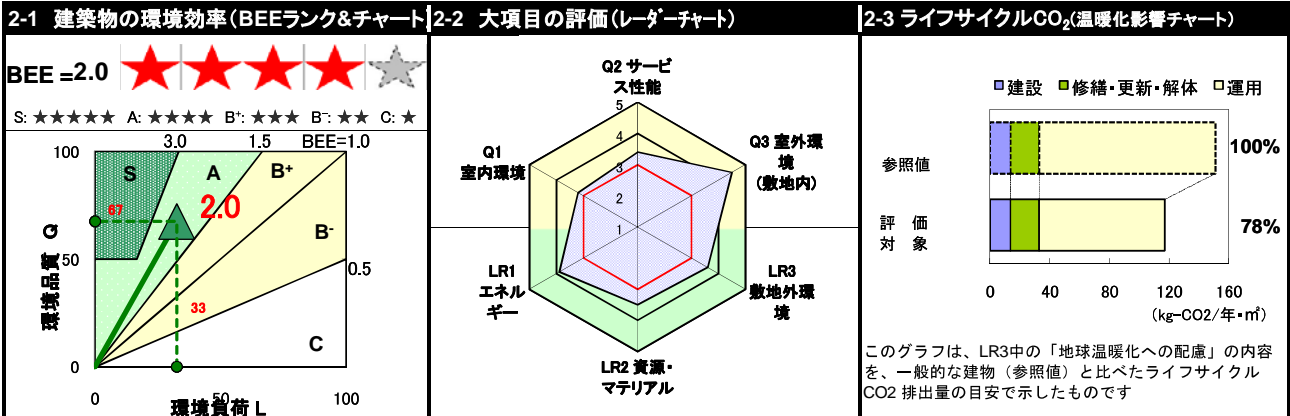
重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.5		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.5
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.3		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.6
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	4.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	4.0		生物環境の保全・創出	4.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	5.0		まちなみ・景観への配慮	5.0
			地域性への配慮・快適性の向上	5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

CASBEE®新潟 | 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)



2-5 設計上の配慮事項

総合 江南区に広がる農村の景観に配慮した設計とするため、建築の周囲を平屋建てとして計画しています。また、色調などにも考慮しています。また、既存の植林の保存などにも留意した配置計画としています。建築本体としては、クールトレンチなどの採用、太陽光発電(現時点では計画のみ、ニューディール基金による)など、環境への配慮した設計としています。既存の敷地内にある残土の積極的利用を考えた設計としており、現状の敷地に隣接する亀田総合体育館との地盤面のレベルを残土で調整したバリアフリーな設計としています。		その他 建設工事における廃棄物削減・リサイクルとして、できるだけ場内残土を利用した計画としています。また、ピットをできるだけ浅くすることで、土工範囲を減らしています。また、既存の土管や樹を可能な限り使う計画としています。
Q1 室内環境 個別空調 (GHP) 室内機を効率配置した。GHP (負荷偏在ゾーン) に冷暖房フリー機構を採用した。メイン通路上部にトップライトを設置した。一般居室は30m ³ /h・人、ホールは25m ³ /h・人にて計画した。	Q2 サービス性能 内装に対しては、自然素材を多く取り入れ、モザイクやバスを通し設置した。一般的なフローリングや、石貼を用い、清掃が容易なものを採用した。ゴミ庫を内部に設置し、地置きを設けており、外部にすぐに出る。ホール熱源はガス熱源水栓を2台設置、その他ゾーンはGHPを分散設置した。ホール空調機は外気冷却可能とした。節水型器具を積極的に採用した。メイン室からの各ゾーン給水系統に管理バルブを設置した。内部空間に柱や壁がなく自由な平面となるように計画している。	Q3 室外環境 (敷地内) 既存植林の保存(梅林)などを考慮し、建物周囲には広い緑地をもっている。景観には十分配慮し、用いる景観に合わせた色使いとしている。また緑地も多量に確保している。ワークショップなどを実施し事前に使用する人の使い勝手や地域性を考慮した。芝生などの緑地帯を形成し、建物周囲に必要なバッファゾーンを形成している。
LR1 エネルギー 事務所部分 297.5MJ/m ² ・年、集会所部分 363.6MJ/m ² ・年、全体 327.9MJ/m ² ・年(基準値-20.9%)にて判断基準値をクリアしている。トップライト、クール・ヒートチューブを設置した。全てのCEC判断基準値をクリアしている。市の効率的な運用管理体制を計画している。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器や自動水栓を設置した。躯体は打ち放しとしており、内装に関しては直接でなく、LGSなどを使ってから仕上っている。また、発泡断熱材を使用しないように配慮している。	LR3 敷地外環境 既存駐車場と連携する形で、増台できるような計画としている。またエントランスでの荷降ろしなどは庇がある。また、地球温暖化対策としてCO ₂ 削減に配慮した設計としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される